

年金業務・社会保険庁監視等委員会(第22回)議事要旨

1. 日時 平成21年12月18日(金) 10:15~11:00

2. 場所 中央合同庁舎第5号館16階委員会室

3. 出席者

(委員会) 葛西委員長 大宅委員長代理 磯村委員 岩瀬委員 住田委員 村岡委員

(総務省) 戸塚行政管理局長 田部事務室長 小森主任調査員 ほか

(厚生労働省) 岡崎総括審議官

(社会保険庁) 渡邊社会保険庁長官 薄井総務部長 石井運営部長 中野社会保険業務センター所長
福本運営部企画課長 井上運営部年金保険課長

4. 議事次第

(1) 厚生労働省・社会保険庁からのヒアリング

(2) その他

5. 会議経過

○ 社会保険庁から、年金記録問題の解決に向けた取り組みの進捗状況等について、以下の内容を中心とした説明があった。

- ・ 「ねんきん特別便」については、これまでに約1億900万人に送付し、約8015万人から回答があり、このうちの約96%の方について年金記録の確認作業が終了した。
- ・ 記録の解明作業については、引き続き「ねんきん特別便」のフォローアップ対策を進めるとともに、旧姓情報を活用した調査等に計画的に取り組んでいる。
- ・ 「ねんきん定期便」については、11月末までに4371万人に送付し、「誤り」があった方など350万人から回答があった。
- ・ また、記録統合に伴う年金額の再裁定の処理については、事務処理体制を強化し処理期間の短縮に努めている。

このほか、今後は来年1月発足の日本年金機構への円滑な引継ぎを行った上で、紙台帳とコンピュータ記録の突合せ等の年金記録問題への対応を平成22・23年度の2年間に集中的に取り組むとの説明があった。

これらについて、委員からは、報告内容の事実確認や関連質問等があった。

○ 委員会の最終回に当たり、委員会活動を振り返っての葛西委員長の談話が述べられた。また、渡邊社会保険庁長官からは、年金記録問題については、今後も引き続き全力で取り組んでいくとの発言があった。

[文責 総務省(事務室)]